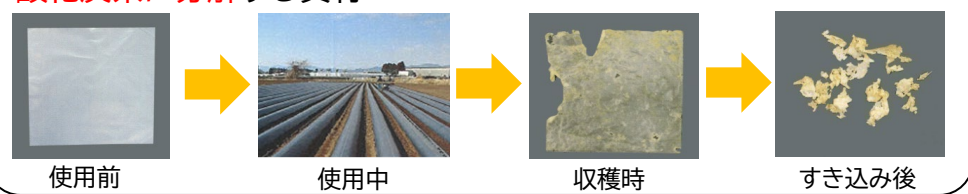


農業生産における生分解性マルチの利用

- ・ 生分解性マルチは、作物収穫後に土壌中にすき込むと、微生物により水と二酸化炭素に分解する資材
- ・ 作物収穫後のマルチ回収作業が不要で、農作業の省力化や廃プラスチックの排出抑制にメリット
- ・ 収穫後は速やかに、土壌中にしっかりとすき込み、強風による飛散や河川等へ流出しないように注意

生分解性マルチとは

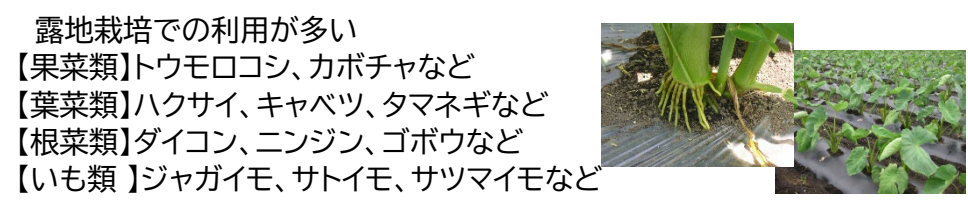
作物生育期には通常のポリマルチと同様の機能を有するが、収穫後に土壌中にすき込むと、土壌中の微生物により最終的に水と二酸化炭素に分解する資材



使用前 使用中 収穫時 すき込み後

生分解性マルチの利用(例)

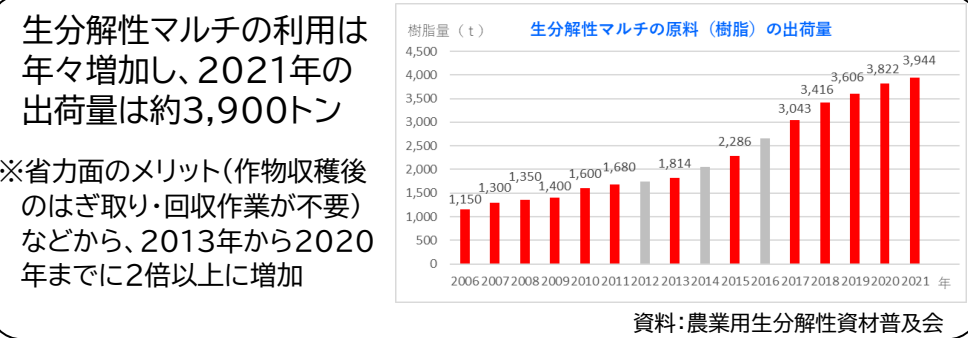
露地栽培での利用が多い
【果菜類】トウモロコシ、カボチャなど
【葉菜類】ハクサイ、キャベツ、タマネギなど
【根菜類】ダイコン、ニンジン、ゴボウなど
【いも類】ジャガイモ、サトイモ、サツマイモなど



生分解性マルチの普及

生分解性マルチの利用は年々増加し、2021年の出荷量は約3,900トン

※省力面のメリット(作物収穫後のはぎ取り・回収作業が不要)などから、2013年から2020年までに2倍以上に増加



年	樹脂量 (t)
2006	1,150
2007	1,300
2008	1,350
2009	1,400
2010	1,600
2011	1,680
2012	1,814
2013	2,286
2014	3,043
2015	3,416
2016	3,606
2017	3,822
2018	3,822
2019	3,822
2020	3,822
2021	3,944

資料：農業用生分解性資材普及会

生分解性マルチのメリット

【省力面】
生分解性マルチは土壌中の微生物により分解されるため、作物残渣と一緒にすき込みでよく、作物収穫後のはぎ取り・回収作業が不要(省力化)(通常のポリマルチは収穫後にマルチはぎ取り、回収、作物残渣を取り除く作業が必要)

【環境面】
生分解性マルチは使用後の廃プラスチック処理が不要で、プラスチックの排出抑制に貢献(通常のポリマルチは、使用後に廃プラスチックの適正処理が必要)

【経済面】
生分解性マルチの価格は通常のポリマルチの3～4倍であるが、使用後の処理費用が不要(通常のポリマルチは使用後に回収し、産業廃棄物としての処理費用が必要)



省力面・環境面・経済面でメリット

生分解性マルチの使用後の処理

作物収穫後に生分解性マルチをすき込まずに放置していると、微生物による分解が進まず飛散する可能性があるため、収穫後は速やかに、土壌中にしっかりとすき込む必要がある。

※風が強い日のすき込み作業の場合は、生分解性マルチが飛散して河川等へ流出しないように注意する



収穫後は速やかに、土壌中にしっかりとすき込む

さらに詳しい事例は「生分解性マルチの活用事例(H31.2:農水省生産局)」でも紹介
<https://www.maff.go.jp/j/seisan/pura-jun/attach/pdf/index-23.pdf>